

ひのまちトーク 2022 報告書



@イオンモール多摩平の森
3階イオンホール+Zoom（第一部のみ）

日野市企画部地域協働課

開催の経緯

地域協働課では、地域で活動している様々な団体をお呼びして、地域懇談会を開催しています。地域懇談会の参加者アンケートにて、自治会同士の交流や他の自治会の活動状況を聞く場がほしいというご意見を多数いただきました。そこで、16名の自治会員（運営委員）と一緒に企画・運営方法の検討を重ね、昨年度初めて自治会交流会を実施しました。

今回は、10名の自治会員の方々と自治会交流会の内容や実施方法を検討し、名称も親しみやすい『ひのまちトーク』に改め、開催いたしました。

今後も、自治会の更なる発展のため、自治会交流会を自治会員の皆様と作りあげていきます。

目次

1. 開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 ページ
2. ひのまちトーク 2022 当日の様子・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 ページ
3. 第1部 パネルディスカッション発表内容・・・・・・・・・・ 5 ページ
4. 第2部 交流会にて出た意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12 ページ
 - イベント・お祭りの開催方法ブース
 - 団地・マンション自治会の交流ブース
 - 地域の横の繋がりブース
 - 退会者の少ない自治会・組織編成ブース
 - 情報発信・SNS、ホームページ活用方法ブース
 - 地域防災ブース
5. アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20 ページ

1. 開催概要

ひのまちトーク 2022（自治会交流会）

開催日 令和4年6月11日（土）

開催時間 午後1時30分～午後3時30分

会場 イオンモール多摩平の森3階イオンホール・オンライン（Zoom）※第一部のみ視聴

1 ひのまちトークの目的

ひのまちトークは、なぜ、自治会活動を行っているか？に焦点を当て、活発な自治会活動を行っている方々のご登壇、また交流の中心になっていただくことで、今後の自治会活動のヒントを見つけていただくことを目的に開催しました。

2 パネルディスカッションでの事例紹介

活発な自治会の参考事例をパネルディスカッション形式で発表

～私が思う『地域のみらい』・・・だから私は自治会に入る！！～

【パネリスト】

- ・豊田第四自治会 落合 様 ・下田自治会 前田 様 ・武蔵野台自治会 武井 様
- ・西宮下自治会 石岡 様 （順不同）

【ファシリテーター】※ひのまちトーク運営委員

- ・主 黒川自治会 中村 康子 ・副 第二豊田荘自治会 中村 輝子

3 交流会

7つのテーマに分かれ、興味のあるテーマを20分ごとに回るワールドカフェ方式で交流会を実施

4 当日の流れ

○市長挨拶

○ひのまちトーク趣旨説明（滝合自治会 壺井 隆）※ひのまちトーク運営委員

○【第一部】パネルディスカッション事例紹介

○【第二部】交流会

①イベント・お祭りの開催方法ブース

②団地・マンション自治会の交流ブース

③地域の横の繋がりブース

④自治会加入方法ブース

⑤退会者の少ない自治会・組織編成ブース

⑥情報発信・SNS、ホームページ活用方法ブース

⑦地域防災ブース

○市政情報コーナー（平和と人権課・防災安全課・都市計画課）

5 主催

日野市企画部地域協働課

6 当日配布資料

・プログラム

日野市公式 HP > くらし・手続き > 自治会・市民活動 > 自治会 >

ひのまちトーク 2022 ID：1019647



2. ひのまちトーク 2022 当日の様子

1 参加者数

開催日時	参加区分	参加人数(人)
令和4年6月11日(土) 午後1時30分～午後3時30分	会場参加	116
	オンライン参加	21
		137

※オンラインは第一部のみ視聴参加



3. 第1部 パネルディスカッション発表内容

発表資料等については市のホームページに掲載しています。

【パネリスト】

豊田第四自治会 落合 様、下田自治会 前田 様
武蔵野台自治会 武井 様、西宮下自治会 石岡 様

【ファシリテーター】※ひのまちトーク運営委員

黒川自治会 中村 康子、第二豊田荘自治会 中村 輝子

◎パネルディスカッション発表内容

【中村】

「豊田第四自治会では、防災も絡めた流しそうめんや、ニジマス釣り、豊田の花火など色々なイベントを開催されております。イベントを行う上での工夫やポイントなどを教えてください。」

【落合】

「“楽しくなければ自治会ではない”という会長のポリシーの基、自治会員の皆様が支払った自治会費以上の楽しい体験をしていただこうと、自治会に入ってよかったと思っていただけるように、季節ごとに様々なイベントを企画しております。私共の自治会エリアの JR 豊田駅南口には、自然豊かな場所がたくさんあります。きれいな湧き水の用水路、豊田という名の通り豊かな田んぼが残る緑豊かな土地や畑、それに活動拠点でもある地区センターには広大な公園予定地が隣接しているという恵まれたこの地域の特性を有効活用しています。イベントを通して、自分たちの住んでいる地域に愛着を持ってもらったり、子どもたちに豊かな思い出を作ってもらったり、人と人が緩やかなつながりを持ってもらうことが狙いであります。ですので豊四のイベントは、親子で参加できるものが多いです。ニジマス釣り、カブトムシの幼虫採り、ジャガイモ掘り、プルーンやブドウ狩り、流しそうめん大会に田植えや稲刈り、ピザ祭りに餅つき大会と、豊四のイベントには子どもたちの歓声があふれています。コロナ禍にはいくつか中止せざるを得ないイベントもありましたが、最近は感染予防に注意しながら再開しています。

こんなにイベントが多いと、役員さんが負担なんじゃないか、なり手がいないんじゃないかと思われるかと思いますが、豊四では役員の任期は 2 年です。初年度は副班長、2 年目に班長として活動することで、2 回繰り返すと大体のイベント時の動きがわかっている状態となります。また豊四の特徴として、実行委員制度というのがあります。これは役員が 2 年の任期を終えた後に、有志として実行委員として残る、知り合い同士が誘い合って実行委員になる、イベント時に出られる人が出てきて手伝うという制度です。イベント当日は、役員と実行委員、興味ある人が中心となってやっていくことで、決して役員さんに手伝いを強制しないということが負担軽減にもなっているのかなと思います。結構役員さんも楽しんで活動には参加されているなという感じです。実行委員制度によって、普段は忙しくて自治会活動に参加できない若い現役世代も、休日の自治会活動に関わってくれています。できる時にできる範囲で、それがイベントにかかわるスタッフがわきあいあいと負担なくやっつけられる秘訣かもしれません。

それから、うちのイベントには決まったマニュアルはありません。会長が常々「自治会のイベントは究極のサバイバル、いざという時に役立つ実践的な防災訓練である」と言っています。いつ起こるかわからない災害時に、地域の人が互いに声を掛け合って立ち向かって、それぞれの役割を臨機応変に果たしていくためには、こういった日ごろの活動が生かされるのではないのでしょうか。自治会の倉庫には何があるとか、あの

人はこれが得意だったとか、あそこに行けばこういうことをやってもらえるとか、そういうことの情報や知恵や知識が、様々な楽しいイベントを通して自然に身につくことも私たちのイベントの裏テーマにもなっています。

準備など大変なことはありますが、とにかく自治会のイベントは本当に楽しいです。やっている時はもちろん、終わった後の役員さんや実行委員さんで乾杯するビールのおいしさとかです。人と人とがつながっている実感を持てるというのも豊四自治会のイベントが成功している秘訣かもしれません。」

【中村】

「ありがとうございました。やはり楽しく参加できることが成功の秘訣かなと思います。

続きまして下田自治会では、役員の世代交代がうまくいっていると伺っています。どのような仕組みで行っているのでしょうか。仕組みに至った経緯なども含めて教えてください。」

【前田】

「下田自治会は、浅川・多摩川の間に挟まれた環境がいいところで、日野市では割と若い方々がたくさん住んでいる地域です。そういう若い力を、またおじいちゃんおばあちゃんとの交流を含めた上で、なんとか自治会を盛り上げて行こうと活動をしています。夏祭りのイベントや、キッチン下田(夏休みに子どもたちにお弁当を配布)、後は映画祭などです。色々な課題を解決していこうと、みんなで検討し、活発に動いています。とにかくコミュニケーションを通じて、防災の時や緊急事態の時に、コミュニケーションできるような仕掛を一生懸命やっています。

自治会では、役員の負担軽減やスムーズな役員交代、若い人の参入が課題になっているかと思います。下田自治会では、サポーター制度、アドバイザー制度というものを実施しています。これは、組長さんを経験していただいた方、自治会活動に興味を持っていただいている方にサポーターとして入っていただいて、一緒にイベント・催し物を手伝っていただく、その中で自治会がどういう動きをしているのか、どういう活動をしているのかを理解いただくというのがサポーター制度です。アドバイザー制度は、会長・副会長・役員がいますが、限られた人数では負担が高くなってしまふ、そこをアドバイザーに助けていただくという制度です。これによって、徐々にサポーター・組長に、若い世代をどんどん入れて、その方に今度はアドバイザーになっていただく。そして役員になっていただく流れが下田自治会の中にできています。この流れをずっと循環させることによって、常に若い方々、色々な方が入って、役員の負荷も下がってきます。また、世代交代もスムーズにできています。それによって組の編成等、色々な課題も吸い上げて改善できています。」

【中村】

「ありがとうございました。サポーターやアドバイザーの存在は、役員の負担減に繋がると思います。続きまして、武蔵野台自治会は多摩動物公園の裏手にある自治会ということで、起伏のある場所に皆様お住まいだと思いますが、退会者数が非常に少ない、加入者数を維持されているとお聞きしました。会員数の維持をどのようにされているか、秘訣などを教えてください。」

【武井】

「私は以前自治会の会長を4年、今は自主防災会の会長を4年しております。自治会の役員は1年で交代です。班は10班ありますが、10人総入れ替えとなると、継続的なことができないということで、防災、防犯、地域のイベントなどに関しては自主防災会の方でやるという形にしています。あくまでも自治会内の組織という形です。できる人が、できる時に、できることをやるというのが趣旨ですので、強制力が全くありません。

自治会の加入率は、217 世帯の小さな自治会で、大体 200 世帯くらいの加入があります。うちの自治会は 50 年くらい前に丘陵を開墾してできた住宅です。第 1 世代が 50 年くらい前、続いて第 2 世代・第 3 世代・第 4 世代というかたちです。50 年ほど前に入った方が亡くなって家を売られて、最近新しい方が多くなってきています。加入率に繋がっていると思うことは、一斉清掃と月 2 回の防犯パトロールです。一斉清掃の時に、公園がなかったので、ちょうど中間地点の道路の真ん中に全員集まってもらいます。そこで各班長さんから、ボランティア袋や手袋、土嚢などをお渡しして、会長と自主防災会の会長からあいさつすることが恒例になっています。その時に併せて安全シグナルの実施もしています。班長さんはそこで、自分の班の方の顔とお名前が確認できます。ご近所づきあいがそこから始まります。また月に 2 回、防犯パトロールもやっております。班長さんを中心に、各班で順番にやっております。人数が足りない時は自主防災会が応援に入ります。やることは、ただ歩くだけです。そこに必要なのは、ご近所の方と 30 分無駄話をしながら、ぶらぶら歩くということ。そこでご近所づきあいができてくる。そのご近所づきあいが加入率に繋がっていると思っています。」

【中村】

「ありがとうございます。集まって皆さんの顔を合わせることが秘訣だなと感心しました。

続きまして、西宮下自治会では昨年度 10 世帯以上の新加入があったということですが、何か秘訣がありますでしょうか。」

【石岡】

「私は 4 年間役職を務めさせていただきました。今年度は降りて、サポート役という形で活動させていただいています。我々の自治会の位置としては、日野市の西の方で、豊田電車区のすぐ南側です。昭和 40 年代に設立された自治会で、活動そのものが活発化したのが平成 7 年からです。613 世帯中 202 世帯が加入ということで、かなり加入率が低いというような状況です。

自治会加入について、何点か課題がございます。現在区画整理が進行しており、人の出入りは多くありますが、入ってきた方の加入はかなり低調であるということ。また高齢化で自治会の必要性が希薄になって、退会に繋がっています。それからマンションにお住まいの会員が全員退会し、新しい自治会となったことなどです。

加入促進の取り組みとして、やはり自治会の存在意義、魅力等のアピールが必要だと考え、色々な行事を行っています。それを自治会情報として発信しております。この行事をやるにあたり、未加入宅に自治会紹介や加入チラシの配布をしました。大体はここで終わるんですが、私達は加入率を上げるため、役員で手分けをして、未加入宅を訪問しました。この結果、昨年度は 12 世帯加入していただきました。

実施した行事は、親睦活動、地域安全活動、福祉活動、環境活動、会員主催行事、その他活動と、色々な分野でございます。お金については市の補助金を利用しています。加入促進につながったと思っているのは、親睦活動である秋祭りです。これは子どもたちにたくさん集まっていただこうと、大道芸人を招いたり色々なゲームを準備しました。お店もたくさん出店させた結果、330 名の方がこの行事に参加してくれています。特に子どもたちの参加が多かったということで、先ほどの数字につながっているかと思います。」

【中村】

「豊田第四自治会では、イベントを近隣の自治会さんとの合同で開催されていると伺いましたが、合同でやる秘訣やメリットを教えてください。」

【落合】

「防災研修会とかそれから餅つき大会など、大掛かりなイベントの時は、近隣自治会にも声をかけて合同で開催しております。世帯加入数の少ない規模の小さな自治会にとっては、一緒にやるメリットも大きいのではないかと思いますし、われわれにとっても、参加人数が増えて賑やかなイベントになる、自治会の枠を超えて地域に顔見知りが増えるという貴重な機会になっています。自治会長が個別に声をかけたり、豊四の活動を聞いた役員さんが問い合わせと一緒にやるようになったりと、決して無理強いせず、負担を感じさせないように配慮して合同の輪を広げています。

合同でやるやり方も色々あります。例えばこちらが焼きそばブースを出すから、もう一方の自治会には焼き鳥ブースを出してもらおうとか、そういう風に完全に役割分担をするというやり方もありますし、まずはこちらの役員が主導で動くところをお手伝い程度に参加していただいて一連のやり方を覚えていただいて、自分の自治会に持ち帰って、その自治会独自で開催されるようになったりと、合同のスタイルというのは特に決まっておりません。

合同でやるメリットを大きく感じるのが、秋の防災研修会です。公園予定地の非常に広大な場所を活用して、地域の消防団と協力して AED 講座を行ったり、はしご車や起震車を呼んだり、アルファ米の炊き出しに豚汁づくりなどを行っています。災害時には自治会の枠を超えて、例えば避難所を同じくする自治会の連携というのは、非常に大事だと思っています。日ごろの訓練などで顔を合わせておくだけでも、いざという時は心強いものですし、声も掛け合いやすくなるのではないかと思います。

また、近隣自治会も含めて、自治会加入率の低下は大きな問題となっています。ですが豊四のイベントは、あまり加入と未加入を厳しく区別していません。門戸を広くして、合同での企画を行うことで、自治会加入のメリットや楽しさを多くの方に感じていただき、双方の自治会の加入者が増えれば何よりだと思っています。今豊田駅南口は区画整理が進んでいて、新しく転入する若いファミリーが増えています。先日のピザ祭りで、初めて参加された子ども連れの若いお母さんが、「緑豊かな環境の中でこんな楽しいイベントがあるなんて、本当にここに引っ越してきてよかった。子育てが楽しくなりそうです。」と言ってくださいました。自治会活動を通して、地域への愛着を持って、顔見知りがいて挨拶が気軽に交わらせるような地域づくりに、自治会活動、そして合同でやる自治会活動が一役を担えたらと思っています。」

【中村】

「続きまして前田さんにお伺いします。若手が参画しているということで、SNS とかホームページを活用した情報発信を展開されています。自治会における SNS の活用について教えてください。」

【前田】

「下田自治会では、積極的に SNS、LINE、ウェブ、ホームページでの情報展開を進めています。

まずは LINE です。これはアドバイザー制度、サポーター制度により、役員の年齢も 60 歳以下になっていたのので、LINE をみんなで使っていこうと、まずは役員自ら使って役員同士で情報共有用に使ってみた上で、導入に踏み切っています。現在利用者数が増えてはいますが、もっと増やしていこうとしています。

それと並行してホームページも公開しています。ホームページは立ち上げるまでに 3 年ほど検討しました。ホームページは運用・維持が重要になります。ですから、役員や担当の方が変わってもホームページを続けられるように、そういう面を調査して、簡単にできる仕組みを取り入れ、維持・更新、編集できるという体制が構築できています。また、地域の企業、幼稚園、病院、高齢者福祉施設と連携して、下田自治会だけの情報ではなく、地域のポータルサイトとして、色々な情報をこのサイトから展開していくことを、今企画しています。

またウェブ会議を導入して、組長会議とか総会でも活用しています。下田自治会では、年に1回9月に参加者 1,500 人という非常に大きなお祭り、下田フェスタを開催していますが、今後はこういう仕組みを使って、情報を発信していき、SNS の活用をどんどんアピールしていきたいと思っております。」

【中村】

「続きまして、武井さんにお伺いします。空き家を活用した取り組みがあると伺っています。どんな取り組みですか？」

【武井】

「私どもの自治会は、公園や集会所がないというのが一つの大きな課題でした。市に相談している中で、都市計画課の空き家対策の勉強会の誘いを受け、それがきっかけで、自治会内にあった一人も住んでいない廃墟のアパートを、地主の方にご相談して、アパートを撤去後、更地で貸していただきました。管理は一切自治会で行うことにして、そこに自治会でブロックを集めて花壇を作って、菜園を作りました。班長さんに掃除や管理などをお願いすると負担になるので、お花好きな人や菜園をやっている人に手入れをお願いしています。その方達が、手入れしてくれているので、今雑草一つ生えてないですし、誰かしらが毎日来て何かしらをやってるといふ場所、公園になっております。今、菜園ではサツマイモと里芋の苗を植えてあります。それを秋に収穫して、一斉清掃の時に炊き出し訓練に使用します。コロナ禍の班長会や役員交代の引継ぎも、この公園に集まって、行いました。作っておいて本当によかったと思っています。

また、子どもの遊ぼう会というものがあります。これは、朝の見守りをやっているメンバーから、今学校では防犯対策を徹底しているので、子どもに声をかけたらランドセルについている防犯ブザーを鳴らされてしまう…そうすると、いざ地震や何かがあった時どうするのかという声があがり、子どもに近所の大人の顔を覚えてもらおう、そして大人にも子どもの顔を覚えてもらおうと始めました。子ども会にも協力してもらって、子どもを集めて、お母さん方も来てくれるので、ゲームやって、お茶等はこちらで出しています。

後、大人もご近所付き合いがあまりないので、1年に1回、公園の横にある空き家、近隣の家の駐車場、道路も使って、納涼会として一杯飲み会をやりました。そういう風に、ご近所が集まって顔を合わせられるような機会を、その公園を使ってずっとやっていました。コロナがあつてなかなかできていなかったのも、今年は何かやろうと企画をしています。

最後に、本日のプログラムに防犯カメラ設置補助事業の案内がありますが、私どもの自治会では7年ほど前に防犯カメラを設置しました。多摩ではうちが初めてです。当初はどこに相談しても、前例がない、予算がないという状況でしたが、調整を続けて、お金を出してもらえるようになりました。自治会の方でもできれば、防犯カメラを付けられるところがあれば付けた方が地域の安全は守れると思います。」

【中村】

「続きまして、石岡さんにお伺いいたします。自治会パンフレット、LINE、ホームページなどを作成して、情報発信を積極的に行ってらっしゃるということですが、どのようにやってらっしゃるのでしょうか。」

【石岡】

「新たに引っ越してきた方は自治会に無関心という人が多いこと、それから共稼ぎ世帯の会員は自治会の必要性が希薄であるという課題がありました。これを解消するため、令和元年までは回覧板や総会にて自治会情報を発信しておりました。令和2年度にインセンティブ補助事業でホームページの開設が対象になったこと、スマホ・SNSの普及が進んでいたこともあって、自治会の中でアンケートをとったところ、こういうツールを使っている方が約6割近くいらっしゃいました。ホームページ、LINEを開設に対しては、8割の

方より希望があつて、ホームページと LINE を開設しました。ホームページには通知機能がないため、LINE と組み合わせて、LINE で通知をして、そこからホームページへ誘導するという仕組みにしています。同時にウェブコミュニケーションの機材も揃えました。これらの利用には登録が必要ですが、ツールをとにかく利用してもらおうべく、登録の呼びかけを行いました。やイベントの実施を通して、登録者数が 2 年度末で 107 名でしたが、昨年度末で 165 名になっています。

他にもウェブ会議、テレビモニター、共通ファイルなどを準備して、色々な使い方をしています。これらはコロナ対策にも役立っています。行事をどこでも閲覧できるということで、会員の方から喜ばれておりますし、LINE 発信により、班長さんの負担が軽減しております。また在宅で会議に参加できるため、会議の出席率が向上しています。今回 65 インチのモニターを準備して、そこに会議資料を映すことで、会議の進行がスムーズになり、理解度も上がったと思っています。これらは、加入促進にもつながっておりまして、この年も 10 数名の方が新しく加入しています。」

4-①. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ①イベント・お祭りの開催方法ブース

○コロナ禍における飲食物の提供について

・自分たちで調理をして提供というのは難しい状況だったので、キッチンカーや地域の飲食事業者に依頼をした。蓋つきのテイクアウト仕様での包装をお願いして、参加者の方には持ち帰りをお願いした。非常に盛況だった。

○提供内容はどんなものがありますか？

・唐揚げ、クレープ、コーヒーやサンドイッチなど。

○日野デリ・カーについて

- ・約束した時間に行って、販売して帰る形。台数は1台。
- ・商品の購入義務のようなものはない。呼ぶのも無料。
- ・自治会や地域の手作りのイベントを盛り上げようと、事業者が地域おこしのために行っている事業。
- ・提供できるものは、お惣菜、お弁当、スイーツなど色々ある。自治会で用意するものと競合しないように、調整・相談可能。スタッフ用のお弁当などの注文も受けている。
- ・単発のイベントだけでなく、継続的な支援も可能(応相談)

○お祭りでの食べ物以外のアトラクションはどんなことをやっていますか？

・下田自治会の場合は、幼稚園や保育園の子どもたちの盆踊りや、日野太鼓の演奏、バンド、テコンドーの演舞など。日野太鼓は呼んでいただければ行きます。花火や抽選会などもある。スーパーボールすくいやヨーヨー釣り、手作りのストラックアウトも人気だった。今年はそれに加えて、体を動かして遊べる簡単なもの4つ、子どもたちが順番に回れるように企画している。アイデアは、役員たちの飲み会の場から生まれたりしている。ストラックアウトは貸出可能。

○音響関係の担当はどうしましたか？

・照明も含めて、専門の業者に依頼している。

○費用はどうしていますか？

- ・自治会向けの補助金を活用
- ・自治会費(前年度繰越金含む)
- ・地域の企業に賛助金として協力してもらう

○ニジマス釣りについて(豊田第四自治会)

- ・つかみ取り、釣り。さばいて、炭で焼く。どこまでやるかが大事。捌くこともやるのがサバイバル。防災に繋がる。
- ・ニジマスの仕入れは、ニジマスを扱っている業者と知り合いの方が自治会内にいて、そこから仕入れている。自治会内外色々な人が協力して行っている。

○イベント情報の発信はどのように行っていますか？

- ・紙ベース(回覧や掲示板など)
- ・自治会のホームページ
- ・Zoom でリモート配信をしている

○掲示板と回覧板の良さ

・掲示板は、一緒に見た人同士が、その場でお互いを誘いあえる。

- ・回覧板は見守りにも繋がる。回すという行為自体が、地域づくりの一つ。
- ・デジタルによる発信と併用している

○自治会行事 事例

- ・流しそうめん
- ・お餅つき
- ・映画上映会
- ・焼き芋大会
- ・芋ほり

○餅つきの道具を借りられる場所がありますか？

- ・日野市社会福祉協議会や児童館など

○イベントで映画作品を上映する場合、作品の著作権の手続きはどうしていますか？

- ・業者に頼んでいる。金額としては作品にもよるが、2万円程度。

○高齢者の退会抑制

- ・回覧板が回せない、行事も手伝えないという理由で退会されるご高齢の方が多い。
- ・行事では手伝えなくても、一緒に座って楽しそうに過ごしてもらえるだけでいい。
- ・何かをやらなくちゃいけないという、負担感を感じさせないことも必要。
- ・子どもたちが楽しそうにしている姿を見ているだけで、楽しくなることもある。
- ・子ども達と一緒に多世代交流をしてはどうか。
- ・老人会やサークル活動をされている方にお声がけして、工作や手芸、昔遊びなどを教えてもらおう、一緒にやってみる。

○誰でも参加できる行事を実施することに、会員の人から不満の声はあがりませんか？

- ・全く0ではないが、自治会費を使うということについては、自治会補助金は非加入世帯分も含めてもらっているのでも、理解してもらっている。

○規模が小さく単独で行事を開催するのが難しいのですが、合同で開催しているところはありますか？

- ・近くの自治会に声をかけて、合同で開催している例もある。
- ・他自治会と合同でやると、賑わいも増すし、運営側の人手が増えるというメリットがある。

4-②. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ②団地・マンション自治会の交流ブース

○マンションや団地の自治会でのお悩みはありますか？

- ・加入率については高いところは90%を超えているが、低いところは30%程と、差が激しい。
- ・マンションであっても高齢化が進んでおり、加入率の減少の原因となっている。
- ・地域内にマンションが多数立地していると自治会の加入率が下がってしまう所もある。
- ・大きいマンションになると、住民を把握するのが難しい。
- ・古いマンションだと高齢化や空き家の増加が目立っている。

○他市の状況はいかがですか。

- ・国分寺市は自治会に対して特に補助金は無い。
- ・マンションでは管理費から100円自治会費としてひかれているところもある。

○自治会活動で工夫されていることはありますか？

- ・新しい役員の方が気軽に相談できるようにしている。
- ・マンションの管理組合と連携して活動している。
- ・インセンティブ補助金など、市の補助金を活用している。
- ・ゴミ捨て場に監視カメラを設置し、マナーの悪い人がいた場合、ポスター等で注意している。

4-③. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ③地域の横の繋がりブース

○地域の横の繋がりとは？

- ・自治会と市、学校、児童館を通した、他の自治会等との繋がり。
例えば、学校や空き家などを核にした地域としての自治会同士の横の繋がりのこと。
以前は複数の自治会が合同で行事(自治会対抗運動会等)をやっていた印象がある。
横の繋がりを作ることで、活動の幅が広がるのではないかな。
- ・自治会マップ(※)を見ると、山間部は一部例外もあるが、日野市の自治会は隣接していて、孤立していない。連携は可能だと思う。PTA や防災会などの活動を通して、自治会同士も連携できるのではないかな。
※自治会マップ…地域協働課にて配布。日野市転入者にも市民窓口課にて配布。市 HP (ID: 1003341)にも掲載。

○地域の横の繋がり的事例

■平山まちづくり協議会

- ・平山二丁目では、平山一丁目から三丁目の会長同士の連絡会が代々続いている。今ではそこから派生して、三丁を包括するまちづくり協議会を運営されている方々がいる。1年交代の輪番制ではできない長期的なことや単独の自治会ではできないことを、横の繋がりをもとにして、長期的なビジョンに立って、動いている。原動力はやる気のある人がどれだけ集まれるか。その意思を引き継いでいける環境があると良い。

■程久保駅周辺を考える会

- ・自治会内に坂道が多く、車を使わずに気軽に会える場所が、地域にほしいという声があった。要望を受けた当時は会長だったが、輪番制で変わる予定だったので、関わっていけるようにと、自治会から派生して、新しく会を作った。自分がやる気をなくさない限りは不変なもの。そこに要望が集中するようにして、ここが自治会や学校などと繋げる役目を担うようにしている。会としては一人だが、近隣の方にお手伝いとして関わってもらっている。
- ・同じ地域の自治会の会長に声をかけて、地域にベンチを置いたり、空き地を使って公園を作ったりした。関わる自治会をどんどん増やしていったら、程久保全体で繋がろうというプロジェクトを行っている。学校やPTA、子ども会などとも連携して、1年に1回はイベントを行っている。

■滝合防災会

- ・防災会をきっかけに、地域で集まっている。

- ・平山にある集合住宅を会場に、周辺の方を集めてお祭りを開催している。

■アクションプラン

- ・自治会を始めとする、地域で様々な地域活動をしている団体が連携して、地域の課題解決に向けて、地域の繋がりを育む取組。中学校区ごとに開催している地域懇談会より、誕生している。各中学校区それぞれに活動中。市 HP(ID:1013023)

■その他

- ・周辺自治会の方に、防災訓練に参加させてもらった時のご縁で、災害時に避難先として助けてもらった。
- ・企業には地域貢献のための予算を持っているところもある。自治会のお祭りへの参加をお願いして、その繋がりから今後災害時の避難場所として開放してもらえるように交渉中。

○合同で事業を行う際の予算について

- ・各団体で予算立てを行っているので、開催時に持ち出しをする。
- ・自治会として助成していることを引継ぎきれていないことがある。その対策としては、会則に取り込む。引継ぎ書に助成先として記載するなどがある。
- ・自治会内でまとまった予算を取るのが難しい場合は、自治会負担は少額にして、別団体(上記のような地域の団体)で補助金の申請を行っている。

○地域の横の繋がり 活動案

- ・まちあるき、ウォークラリー
街を回るということは、その土地のことをよく知ること、防災にも繋がる。
- ・地域の公共スペースに地域の子どもの絵を展示する。みんなが見に来ることで、交流が生まれる。
- ・自治会内で地域活動をやっている人同士が知り合って、お互いの活動に手伝いに行く。協力し合う。
- ・自治会交流会で、近隣自治会の集まりブースがあるといい。横の繋がりで、新たな取り組みが生まれるのではないかな。

4-④. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ④退会者の少ない自治会・組織編成ブース

○退会する人を減らすためにどのような活動をしていますか？

- ・活発な活動をするほど自分が役員になった時に、やるが増えて大変と思い退会してしまうことを恐れているので、その時に出来る方が役員をやるようにすれば良いと思います。
- ・組長をやりたいくない時はスキップ制度で次の方がやるようなルールでやっています。
- ・組長の負担を減らすために二人にしています。
- ・イベント時にチケット(金券)配布をして差別化や加入のメリットを出しています。
- ・75歳以上は班長・役員免除を行っています。
- ・役員の任期は2年だが、本人が希望し了承されれば更新を可としています。
- ・役員はやりたい方がやるのが基本、また、推薦もOKにしています。

- ・組長からは会費を徴収しない。
- ・役員や班長には謝礼を出している。

○会費集めや名簿の作成管理で工夫していることは？

- ・組長の集金件数を 10 軒くらいにしています。
- ・サポーターやアドバイザーが代わりに集金にいきます。
- ・個人情報の収集は自治会の趣旨をきちんと説明しています。

○自治会の集まりは顔合わせで行っていますか？

- ・基本は対面で、コロナ対策として Zoom を使ったり、公園で役員会を開催している。
- ・自治会活動を行う時は、まずは三軒両隣と顔見知りになる。
- ・イベントをやる時は自治会が中心になる。
- ・人の繋がりが大事。
- ・友達が増えればお互いが助けあえる。
- ・一番怖いのは新しい方の顔が分からないこと。
- ・公園の掃除を組ごとに輪番で行っています。おしゃべりするだけで OK。

○新しく入った方の顔が分からないのでどうしたらよいか？

- ・組の中で交流を行っています。
- ・イベントをとおして顔を覚える。

○自治会での防災備蓄の状況は？

- ・三日間分は自治会で備蓄してほしい。
- ・補助金などを活用しています。
- ・自治会で備蓄することが加入のメリットになります。
- ・防災倉庫が一つなので難しいです。
- ・近隣の企業に協力していただき備蓄品を置かせてもらう。
- ・全世帯の備蓄は無理なので炊き出し訓練を行っています。
- ・防災会議に参加することが大事。

○高齢者対策は？

- ・近所付き合いを大切にしています。
- ・自治会で緊急時の連絡先を確認しています。
- ・LINE や WEB もいいですが紙ベースの回覧も残しています。

4-⑤. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ⑤情報発信・SNS、ホームページ活用方法ブース

○自治会の LINE やホームページ等で連絡を取り合うことは良いと思うが、お年寄りには厳しいと思う。

そのあたりは実際どんな感じなのか？

・やはり、紙ベースでの回覧板を無くすことには抵抗のある人が多くいました。そこで LINE を使うようにするけれども、回覧板も並行して行いますと説得してスタートしました。そこから少しずつデジタルに移行していきました。

また、市からの助成金を得て、社会福祉協議会と協力してスマホ教室を開催しました。60 代どころか 70

代 80 代の方が来てくれました。

そのようなことをしているうちに、むしろ LINE でやってほしいという声が増えてきて、13 班あるうちの2班は、紙の回覧板は一切配らないようになりました。

またデータが残るのでいつでも見ることができます。何か月前のものも見れるし、拡大すればスマホでも十分大きく見えます。

・南平台自治会さんでは、自治会公式 LINE っていうのを作ってます。それは回覧板もそこに載っており、会員の登録も LINE からすぐできます。無料でスマホ講座をやってくれる所もあるので、すぐ予約できるかは分かりませんが、公民館や社会福祉協議会などに相談してみるといいと思います。

○公式 LINE のチャットやお知らせは一方通行ですか？双方向ですか？

・皆に返信すると大変なので今は一方通行です。ただし設定の仕方によってはひとりひとりに返信も出来ます。他にはアンケートとかもできるみたいです。

○南平台の LINE は登録している人は皆さん会員の方ですか？

・LINE だけ登録しているという非会員の人もいます。

○非会員にも回覧板を回してるといことですか？

・そうです。イベントの様子とかを知ってもらえればそこから登録してもらえるかもしれないので。

○公式 LINE の運営は誰がやっているのですか？

・最初の開設は自治会の中に出来る人がいたので、やってもらいました。役員として SNS 担当みたいなものを作ろうか考えています。

○OHP はどうしたのですか？

・ホームページも自治会の中でつくりました。Jimdo やペライチというような無料で簡単にホームページをつくれるサービスがあるのでそれを利用しました。

ただ写真やページを多くしたりすると、有料プランに入らないといけなくなります。

○公式 LINE は途中で定員オーバーにならないのですか？

・定員オーバーにはなりません。ただ、無料プランの場合、一か月に送れるメッセージの数に制限がかかることがあります。フリープランが無料で 1,000 通まで、ライトプランが 5,000 円で 15,000 通、それを超えるメッセージについては重量プランで 1 通 5 円です。スタンダードプランは月 15,000 円で 45,000 通、それを超える場合は 1 通 3 円の課金が必要みたいです。

○LINE から意見をもらって回答とかはしてますか？

・我々の自治会はそこまでまだやってないです。まずは回覧板に必ず意見を出してくださいって紙を入れています。その意見がある方はその紙に書いて、会長に渡します。そのあと内容を見てこれは全員に回答すべきなのか、くれた方だけに回答すべきなのか判断しまして、全員回覧ってことになれば、答えをちゃんと作って配信します。もちろんその結果は総会資料にすべてこういう質問来たよって必ず情報開示してあります。

○ひとりで返信するのは大変そう？

・なので、LINE の管理者に役員の皆さんを設定しておいて、分かることは誰でも答えてあげてよいという風にすると良いと思います。

○回覧板はクローズなものなので、これまで名前とかセキュリティ的に注意してなかったんですが、LINE はセキュリティの面はどうですか？本名じゃなくても大丈夫ですか？

・LINE 公式アカウントの場合は、そういう制限掛けられないんですが、オープンチャットの場合は 12345 っていうようなパスワードを設定して、それを入力しないとアクセスできないという風に制限を掛けることはできます。

また、オープンチャットであれば、ニックネームで参加できます。

4-⑥. 第2部 交流会で出た意見 テーマ ⑥地域防災ブース

○皆さんの自治会での防災についてのコツや工夫を教えてください。

- ・防災訓練は人が集まらないから、楽しいイベント(祭り・焼き芋)と一緒に開催している
- ・消防署にも参加してもらう。
- ・災害について、正しく知る・正しく恐れる・正しく対処する・危機感を感じる⇒正しく備えること
- ・LINE を活用して自治会内でグループ LINE があってのおかげで、台風の時に川の状況や避難の状況などの情報がタイムリーで分かり迅速な避難ができた。⇒ポイントは普段から向こう 3 軒両隣で声掛けなどのコミュニケーションを取ることが大事

○防災での課題はありますか？

- ・防災時に指定避難場所へ安全に行けるか市から情報を出してくれると安全に行ける
- ・避難情報を市の至る所に表示してほしい
- ・街歩きを普段から行う、高齢者の災害時のリスト化はいいと思う
- ・LINE グループでの情報収集や河川のライブカメラの視聴は有効
- ・LINE グループを活用すると避難所の混雑状況も分かります。
- ・下田自治会のホームページには、浅川・多摩川のライブ映像を見れるようにしています。

○災害時の市からお知らせする方法は？

- ・防災無線や市のホームページ、市の公式 LINE など
- ・防災無線は聞こえない
- ・LINE とかできない人は困る
- ・防災無線が聞こえない家の方には、防災無線の内容が聞ける電話番号を配布する

○LINE のグループ化が有効だと分かりましたが、1 グループ何人ですか？

- ・ある自治会は167名で1グループです。
- ・まずは身近な友達・ご近所さんなどで始めると自然に増えていきます。
- ・LINE グループは、みんなで騒いでいると自分も危機感を感じ行動に移せます。

○防災訓練はどんなことをすれば有効ですか？

- ・消防署や防災安全課が相談にのってくれます。
- ・起震車、煙体験ハウス、AED 訓練、通報訓練
- ・安否確認の無事です黄色タオルの訓練
- ・安否確認のトリアージはやっていただきたい
- ・安否確認の経費は市の補助金を活用できます。
- ・タオルは高いので黄色紙でやっている自治会もある
- ・備蓄も 3 日間分ではなく、1 週間分は用意する。備蓄ローテーションが一番

- ・自治会長宛てに都や市から補助金の案内がくるので、活用して地域の安全性を高めましょう。
- ・災害時のトイレについては問題になる

○皆さんの自治会に避難所運営マニュアルはありますか？

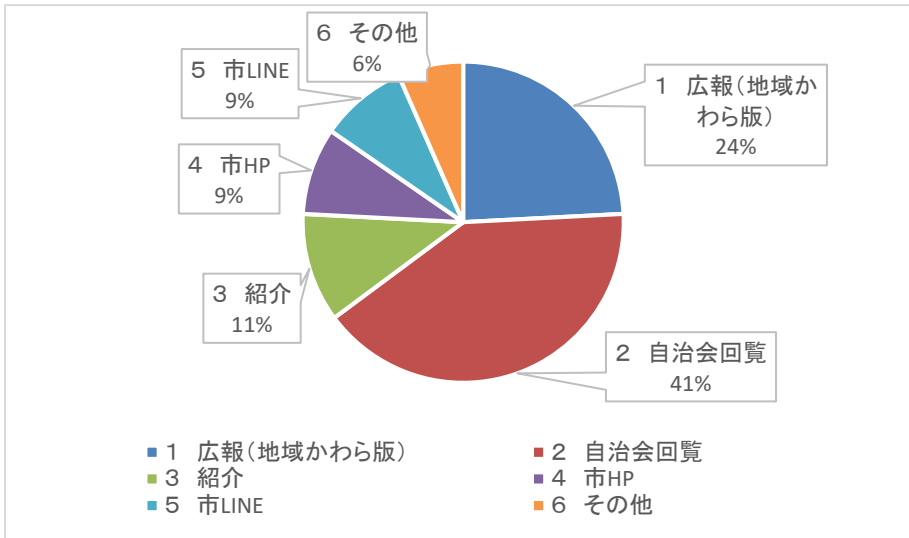
- ・東光寺小学校の避難所運営マニュアルが非常によく出来ています。
- ・初動ボックスという一番に避難所に来たかたが箱を開けて避難所を開設できるように記載されたものがあります。各避難所にあるといいと思います。

○何か他に取り組みしている方いますか？

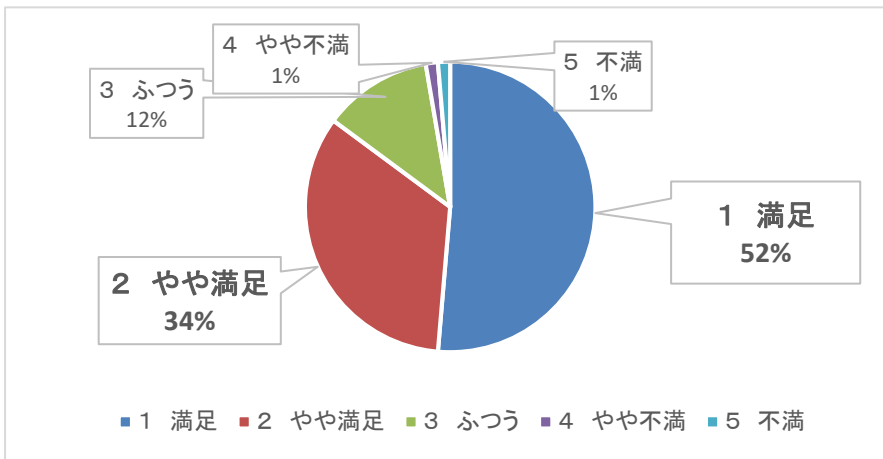
- ・日曜日にラジオ体操をやっている。コミュニケーションや積み重ねで顔見知りが増えるから防災力になると思います。
- ・地域の小中学校に防災についての授業に行っています。子ども達への意識付けが大事。

5. アンケート結果

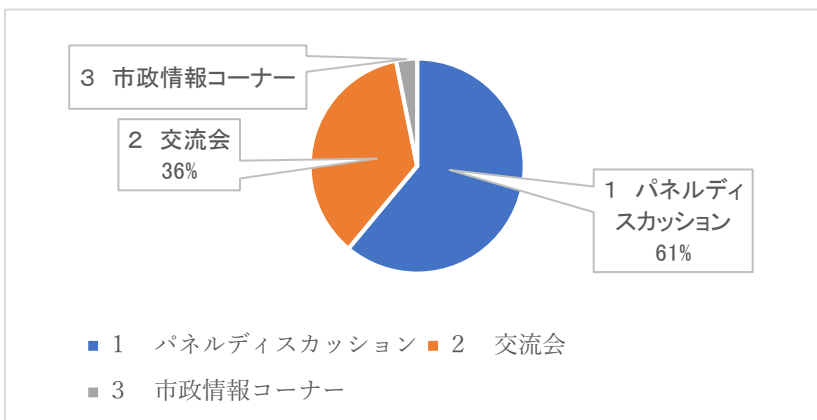
Q1 今回のイベントを何でお知りになりましたか？



Q2 参加してみたいかがでしたか？



Q3 興味深かった内容がありますか？(複数回答)



Q4 第三回があれば参加したいと思いますか？

1. 思う 69人 2. 思わない 4人

Q5 次回の交流会の企画・運営委員として参加したい 4人 (ありがとうございます)

Q6 今後の「ひのまちトーク」で話したい・聞きたいテーマはありますか？ (一部抜粋)

- ・若年層、働き盛り、企業の巻き込み方
- ・自治会に入会者を増やすにはどうすればいいか、加入促進について
- ・地域の高齢者対応
- ・情報発信のペーパーレス化に関して、どのように取り組むべきか
- ・多文化共生について、多国籍の住民の方々との交流について
- ・個人情報(会員氏名、年齢、住所)の収集・保護について
- ・ワンオペで困っている子育て家庭への支援
- ・近隣自治会との交流
- ・ホームページの作り方
- ・学校やPTAとのつながり、教育面での関り、コミュニティスクールについて
- ・コロナ対策
- ・上手くできている(回っている)自治会のそうなるまでの歴史
- ・災害時の自治会の役割

Q7 本日の感想・ご意見など (一部抜粋)

- ・とても参考になりました。
- ・自治会問題は全国的な問題で、国、自治体で対策を考える必要があると思う。
- ・自治会の事がわかって良かった。
- ・防災の懇談会があってもよいのでは
- ・交流会を聞いていても、色んな場面でどうすればよいか！市や行政はどこまで対応してくれるのか。皆様わからないので、知りたがっていました。
- ・運営の方々ありがとうございました。
- ・会に加入する人を増やしたい、というのが本日の参加の一番の目的でしたが、紹介の自治会さんは(一自治会を除いて)総世帯数の半分以下。これは私の自治会より少ないです。また行事、イベントも私の所より少ないし、規模が小さそうです。ホームページの開設は考えたいけれど、高齢者の増が問題なので一歩踏み出せないです。
- ・大変良かった
- ・なかなか運営はむずかしい。なぜ自治会に入るのかを個人個人で考えて頂くのが大事。
- ・人とのつながりの大切さを実感した。
- ・情報発信について、非常にためになる話を聴くことができた。
- ・地震時一人暮らしの市民(高齢者)に知らせるようなネットワークを、日野市役所に設けていただきたいです。よろしくお願いします。
- ・どこも同じ悩みをかかえているのだと感じました。
- ・他自治会について、取り組み等聞く機会はないので、興味深い話もあり参考になりました。
- ・4名のパネラーの自治会の取組に感動しました。参考になります。

- ・参加して良かった。自治会活動の参考になった。
- ・活発な会でよかったです。参考になりました。
- ・各グループの声が錯綜していて聞きづらかった。
- ・日野市もマンションが多くあります。自治会入会は任意なので、日野市全世帯がとはいきません。防災の時はどうなりますか。心配です。今回は入会しているマンションの自治会の様子を聞いたかったのですが、無かったのが残念です。次回お願いします。
- ・もっと市から自治会加入のPRをして欲しい。
- ・発表事例と自分の自治会との現状の差があまりにも大きくて、そこに行くまでの道のりの手段・方法等が全く想像がつかないので、その辺の話をお願いしたい。
- ・市のバックアップを知りたかった。
- ・積極的な活動を知る事が出来てよかった。自分の自治会でもぜひ取り入れたい。
- ・日野市 HP で自治会の紹介コーナーがあると良いと思う。
- ・地域に帰り運営のヒントをいくつか頂きました。
- ・学校と地域というところも少し聞いたのと、防災をお金をかけずに始めるところが大事だと聞いたのが良かった。
- ・第二部の交流会は個別のブースで開催してほしい。声が聞き取れない。
- ・他の自治会の取り組みを聞かせて頂き、大変参考になった。
- ・各自治会の取り組みが前向きで素晴らしいと思います。
- ・各自治会で毎々活動方法が違いますが、自治会員にとって何が必要かを良く考えている。
- ・自治会の行事が興味深かった。
- ・自治会の退会者が多数出てしまいました。自治会に入って良かった・・・！どうしたら良いか等困っています。(メリット等具体的に)→各自治会での説明が不明。(誰か)リーダー(一部の人)が、一生懸命やっているように聞こえた。自治会での運営が見えない。
- ・準備、運営された皆様お疲れさまです。
- ・日野市の財政をもっとしっかりとして欲しい。資金が豊富であれば、いろいろとやれる事があると思う。